

<全体分析>

試験時間	120 分	解答問題数	4 題
------	-------	-------	-----

解答形式

記述形式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

誘導的な小問が多い。

その他トピックス

例年に比べて計算が煩雑で計算量も多い。

2006年度以降、2011年度を除いて毎年出題されていた数列の出題がなかった。

Ⅲ型との共通問題が2題、一部共通問題が1題あった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	微分法	Ⅱ	3次関数の極値 3次関数の最大値、最小値	やや難
[2]	ベクトル	B	2つの放物線上に正方形の頂点となる点を定める	やや難
[3]	2次関数 確率	I A	さいころを投げて出た目によって放物線を定めたときの確率	標準
[4]	三角関数	Ⅱ	5倍角の公式 sin、cosの値	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

標準的な考え方の問題が中心であるので、各分野の基本事項を身に付け、典型的な問題については誘導がなくても解けるようにしておこう。

融合問題も多く出題されているため、単元を超えた問題演習にも取り組もう。また、計算が煩雑な問題もあるため、普段から最後まで計算しつくすようにしておこう。